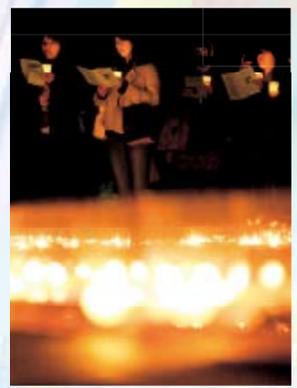


Das Wort ward Fleisch

ことば
～言は肉となって、わたしたちの間に宿られた～

神戸松蔭女子学院大学の
クリスマス礼拝・イベントのご案内

1892年にイギリス国教会（聖公会）の宣教師H.J.フォスらによって創立された神戸松蔭女子学院大学は、英国のミッションスクールの伝統を受け継いでいます。特にクリスマスの時期には、数々の礼拝やイベントが開催されます。これらの礼拝やイベントは、学内の学生・教職員のみならず、学外に開かれており、多くの方々にご参加いただき、共にクリスマスの喜びを分かち合いたいと願っています。



クリスマスツリー点灯式

～Lumen de Lumine～ 光よりの光

〈日時〉11月25日(木) 午後5時～

クリスマスの4週間前から《アドヴェント》(降臨節)というクリスマスを待ち望む期間になります。神戸松蔭では、チャペル前のクリスマスツリーを参加者全員カウントダウンして点灯し、クリスマスの幕開けとします。終了後には、ささやかな一足早いクリスマス・プレゼントをご用意いたしております。



クリスマス・チャリティーコンサート

～Das Wort ward Fleisch～ ドイツ・バロックのクリスマス

〈日時〉12月12日(日) 午後5時開演 ◆入場料/¥2,500(中学生以下¥1,500)

ソリストと合唱メンバーを一般公募し、チェンバロ、オルガンのソロおよび通奏低音奏者として活躍している大塚直哉による指揮で、ドイツ・プロテスタント音楽の父ハインリッヒ・シュッツのクリスマスに因んだ作品を演奏します。

《曲目》☆ハインリッヒ・シュッツ作曲 宗教的合唱曲集より
「言葉は肉となって、わたしたちの間に宿られた」 SWV382
「ひとりのみどり子がわたしたちのために生まれた」 SWV384
「慰めよ、わたしの民を慰めよと」 SWV385 他
《出演》「シュッツの宗教的合唱曲集を歌おう」合唱団 大塚直哉(指揮、オルガン)
《公募によるソリスト》鈴木芳、乃村八千代、山口和子、山本福久
テノール独唱：谷口洋介、合唱指導：耕田芳江



キャンドル・サービス & キャロリング

～In dulci jubillo～ 甘き喜びに包まれ

〈日時〉12月8日(水) 午後4時30分～
[キャロリング開始]午後5時15分頃

キャンドルの光の下でパイプオルガンの音色に包まれてクリスマス・キャロルを歌い、祈りを捧げます。子ども発達学科の学生によるイエス誕生の物語「聖誕劇」を上演するなど親子で参加していただける内容となっております。キャンドル・サービス終了後に、キャンドルを持って大学の近隣にキャロルを歌いつつ巡る「キャロリング」を行います。「キャロリング」の後は、本学食堂にてココアをご用意しております。

《出演》
神戸松蔭女子学院大学聖歌隊(指揮：中田浩隆)、オルガン奏楽者
聖誕劇：子ども発達学科学生(指導：准教授 奥村正子)



クリスマス・イブニング・コンサート

～Hodie Christus natus est～ 今宵、キリストは生まれたもう

〈日時〉12月18日(土) 午後5時開演 ◆要予約・入場無料

聖書朗読と交互に、パイプオルガンに合わせて聖歌隊がクリスマス・キャロルを歌い、オルガン・ソロ、独唱を交えて、クリスマス物語を音楽で綴ります。

《曲目》☆聖歌「あらののはてに」
☆ヴィクトリア：アヴェ・マリア
☆G.F.ヘンデル「メサイア」より「良い知らせを伝える者の足は」 他
《合唱》神戸松蔭女子学院大学聖歌隊
《指揮・独唱》中田浩隆
《オルガン》神戸松蔭女子学院大学オルガン奏楽者(学生)、上野静江(奏楽指導者)
《聖書朗読》司会・朗読者グループ(学生)